

(別紙3)

統一論題：物流の今日的課題

今日の社会は、インターネットをはじめとする情報通信技術が発展し、ネット通販などの新しい業態の流通業が興隆してきたが、一部のデジタルコンテンツやサービスなどを除けば、その成否は物流にかかっているといっても過言ではない。また、物流は企業経営の面から見れば、ロジスティクスやサプライチェーン・マネジメントなどと呼ばれ、経営戦略の重要な要となっている。

このような状況の中で、今回の全国大会では、物流を様々な点から取り上げ積極的な報告・発表をしていただき、物流の課題を多面的な視点から検討していただきたいと考えている。

ここに、物流の今日的課題の主要なものを取り上げてみれば、次のようなものがある。まず、情報通信技術や科学技術などが物流に与えている影響である。特に、IoTや人工知能などが与える影響は大きい。インターネットで様々なデータを取得できることで、より効率的な物流も可能になるし、人工知能の活用によりトラックの自動走行なども現実のものとなってきている。ロボット技術やドローンなども倉庫内の作業や配送方法に大きな影響を及ぼしている。

つぎに、ネット通販などのラストマイルの配送におけるドライバーや配送員の不足問題でも明らかになったように労働集約的で生産性が低いといわれてきた物流においても、労働環境の改善、サービス水準の見直し、収益性の改善などが焦眉の課題となっている。

さらに、東日本大震災、熊本大震災などの自然災害によって社会経済インフラとしての物流の重要性は一段と増している。また、個別企業の視点からも物流は事業継続計画（BCP）として重要となっている。

最後に、二酸化炭素などの排出による地球の温暖化や大気汚染など環境の保全は全地球的な課題となっており、物流活動においても重要な課題となっている。特に、化石燃料を多く消費するトラック輸送などの環境に配慮した対応が求められている。例えば、ハイブリッド車、電気自動車などのようなより環境に優しい車両の導入やモーダルシフトの推進などが重要である。

このような物流を取り巻く状況を背景に、「物流の今日的課題」を統一論題に掲げて開催される今回の全国大会の意義は極めて大きく、研究者、物流事業者、荷主企業などの物流研究や物流活動を通して日本の経済と産業の発展に貢献できる活発な研究報告と学術交流を期待しております。